

年金は自分の未来を支えます



公的年金制度は、老後の社会保障の支柱として、高齢者の
 老後生活を実質的に支えていくことをその役割としています。
 制度の健全な運営のためにも、国民一人ひとりが公的年金
 制度の意義を正しく認識し、年金に対する理解を深めること
 が大切です。
 制度の趣旨やしくみを正しく理解していただくため、11月
 は「ねんきん月間」として制度の周知を図っています。

問 伊奈庁舎国保年金課
 ☎58-2111 (内線 1183)

どうして年金は必要なの？

若い世代の人は、「年金」とい
 うと、身近に感じられることは
 少ないかもしれませんが、やが
 て訪れるあなた自身の老後や、
 あなたの親の老後生活には欠か
 せないものとなっています。
 もし公的年金がなかったら、
 核家族化や少子化が進む中で親
 を扶養する子ども一人当たりの
 負担（仕送りなど自分の親に対
 する経済的な負担）が大きくな
 ります。

また、老後の生活や経済変動
 などの予測不可能なできごと
 に、将来の生活費を個人の貯蓄
 などだけで対応していくことは
 難しいものです。

国民年金や厚生年金などの公
 的年金は、そのときの若い世代
 が保険料を納めることによって
 高齢世代を支える「世代と世代
 の支えあい」のしくみによって
 成り立っています。

国民年金は安定した制度です

国民年金に加入し保険料を納
 付することは、法律上の義務で
 す。

また、少なくとも25年間以上
 公的年金に加入して保険料を納
 めていると、老齢年金は一生受
 けることができます。

社会全体で世代間扶養を行う
 仕組みをとっている国民年金
 は、日本の経済社会が存続する

限り、決してつぶれることはあ
 りません。

国民年金は本来損得の観点か
 ら見るべきものではありません
 が、数えて計算しても、平均的
 に長生きすると、支払った保険
 料の総額より生涯受け取る年金
 額の合計の方が大きく、決して
 払い損にはなっていません。

国民年金は国が運営する制度です

国民年金制度は、長期的な負
 担と給付の均衡を図り、年金
 制度を持続可能なものとするた
 め、国の負担割合を平成16年度

から、段階的に従来の3分の1
 から2分の1へ引き上げられま
 した。国民年金は国が責任を
 持って運営しています。

障害年金や遺族年金もあります

国民年金には、老後の生活を
 保障する老齢年金だけでなく、
 病気や事故で障害が残ったとき

の障害基礎年金や、一家の働き
 手が亡くなったときの遺族基礎
 年金などもあります。

	対 象	加入手続き	保険料の納付方法
第1号 被保険者	自営業や農業などの方とその配偶者 または学生、アルバイトの方など	本人が市役所の国民年金担当窓口で 行います	自分で納付書、口座振替、インター ネットなどで納付
第2号 被保険者	会社員や公務員などで厚生年金や共 済組合等に参加している方	勤務先で行います ※厚生年金や共済組合等に参加する と同時に国民年金にも加入すること になります	厚生年金保険料・共済組合の掛金と して給料等から天引き
第3号 被保険者	厚生年金や共済組合等に参加してい る夫（妻）に扶養されている妻（夫）	配偶者の勤め先に健康保険の被扶養 者届と一緒に申請	個人で納付の必要なし